

平成14年 3月20日

報道機関 各位

広島大学総務部大学情報室長
西田良一

広島大学学位記授与式の挙行について

平成13年度広島大学学位記授与式を下記のとおり挙行しますのでお知らせします。
つきましては、『[式次第](#)』、『[学長告辞](#)』、『[卒業、修了者数調\(修士、博士を含む\)](#)』、『[総代等各代表者名簿](#)』及び『[学生表彰者一覧](#)』を別添のとおり送付します。
また、『[就職状況](#)』については当日、式場受付でお渡しいたします。
なお、式場で取材をされる場合は、自社の腕章を着用していただくようお願いいたします。
おって、式の当日は、大学関係者は全て式場におりますので、当日のお問い合わせは式場の受付でお願いします。

記

日時 平成14年3月21日(木) 11時開式
場所 東広島運動公園体育館
(東広島市西条町大字田口67番地の1)

【お問い合わせ先】
広島大学総務部総務課課長補佐
戸澤 滋憲
TEL: (0824) 24-6012
(ダイヤルイン)

[発信枚数; A4版 12枚(本票含む)]

平成13年度 広島大学学位記授与式

日 時 平成14年3月21日(木)11時開式
場 所 東広島運動公園体育館

式次第

- 一、開式の辞
- 一、国歌演奏
- 一、卒業証書学位記及び修了証書授与
- 一、修士学位記授与
- 一、博士学位記授与
- 一、学長告辞
- 一、在学生代表送辞
- 一、卒業生及び専攻科修了生代表謝辞
- 一、修士及び博士学位記被授与者代表謝辞
- 一、留学生代表謝辞
- 一、学生表彰
- 一、広島大学歌斉唱
- 一、閉式の辞

告 辞

皆さんご卒業おめでとうございます。ご参列のご家族の皆さん、本日はまことに おめでとうございます。

私は、卒業生諸君に、皆さんが生きているこの時代に対する時代認識をしっかりと持ってほしいと思っています。そこで本日は、「フロントランナーの時代」という言葉を、皆さんへのはなむけの言葉として選び、お話しをしたいと思います。

明治以来の日本は、西欧文明に追いつけ追い越せの掛け声と共に、前を走っている欧米諸国を目標にして走り続けました。この傾向は第二次世界大戦後も続いていきました。これをキャッチアップの時代と呼ぶことが出来るでしょう。ある時、ふと気がついてみると、前を走っている人影はまばらとなり、日本はフロントランナーの一人になっていたのです。背後を振り返ってみると、後続の走者達が容赦なく追いかけてきています。90年代の日本は、そのような時期にさしかかっていたと考えられます。現代の日本は、追いつけ追い越せのキャッチアップの時代からフロントランナーの時代への転換期にあり、目標を見失って戸惑っているようにみえます。私達は、明治以来考えたこともなかった、大きな転換期にさしかかっているのです。

キャッチアップの時代は、お手本を見ながら技術を磨き、フロントランナーに出来るだけ近づいていけば良かったのですが、一旦自分がフロントランナーになってしまうと、同じやり方ではトップを維持できないのは明らかです。では、どうすればいいのでしょうか。キャッチアップの時代とフロントランナーの時代との本質的な違いは、真似る立場から真似られる立場になったということです。真似る立場にあるものは、優れた技術力を磨きさえすれば、フロントランナーへ限りなく近づくことが出来ます。しかし、真似られる立場にあるものは、技術力だけではフロントランナーの位置を保つことは出来ません。真似られるもとになるものを産み出す創造力と、それを育てて且つ守っていく企画力が必要となります。

これまでのように、単に技術を高度に磨いて優れた工業製品を生み出すだけではもう駄目なのです。そんなものは、優れた技術を持った後続ランナー達に、直ぐに真似られてしまいます。真似の出来ないものを生み出す必要があります。そのためには、技術に知恵を加えねばなりません。独創性が要求されているのです。日本がフロントランナーとして果たすべき役割はここにあると思います。大学で行われている独創的な研究の成果が、工業技術の革新に活かされるべきです。大学の知的文化が、日本の技術を質的に変えることが出来るはずで

ここまで、主として工業技術を例にとりて話を進めてきました。しかし、以上に述べた状況は、工業技術のみではなく、どんな分野でも見られることです。商業でも、医療でも、芸術でも、スポーツでも、学術研究でも同様です。優れた技術に新たな知を結びつけて、国際的な舞台上で活躍している沢山の日本人が生まれています。本学で学んだ皆さんも、大学の知的文化を活かして、グローバル化の中で中心的な役割を果たしてほしいと思うのです。皆さんは、フロントランナーの時代に生き、日本のフロントランナー時代を担う使命を帯び、また、そういう宿命を背負っています。日本が世界のトップランナーとして走る時代を、皆さんの手で支えていってください。

広島大学の卒業生・終了生の皆さんが、新たな知を社会に持ち込み、将来の日本のリーダーとして活躍してくれることを期待しています。

平成14年3月21日

広島大学長

牟田 泰三

平成13年度広島大学卒業生数

平成14年3月21日卒業

学 部		卒業生数	筆頭者氏名
総合科学部		171(83)	秋月 康平
文学部		181(98)	相見 昌範
教育学部		334(203)	石橋 利規子
学校教育学部		356(216)	青木 加奈子
法学部昼間コース		166(61)	浅原 温史
法学部夜間主コース		95(44)	朝日 崇博
法学部第二部		1(0)	富田 洋平
経済学部昼間コース		155(31) * 1(0)	合澤 照美
経済学部夜間主コース		77(19)	秋山 宜裕
経済学部第二部		1(0)	川崎 庸任
理学部		254(54)	阿倍 恭子
医学部	医学科	103(18) * 1(0)	秋田 慎
	総合薬学科	69(38)	
	保健学科	129(107)	
歯学部		52(26)	青木 美枝
工学部		651(65) * 5(3)	秋竹 教行
生物生産学部		117(57)	青山 昌史
計		2,912(1,120) * 7(3)	

平成13年度広島大学専攻科修了者数

専攻科	修了者数	筆頭者氏名
特殊教育特別専攻科	4(4)	井本 真紀子

(注)()内は女子で内数 *は外国人留学生で内数

平成13年度広島大学大学院博士課程前期及び修士課程修了者数

研究科名	修了者数	筆頭者氏名
文学研究科	52 (27) * 2 (1)	岡田 泰司
教育学研究科(旧)	6 (3)	西村 寛
教育学研究科(新)	160 (80) * 15 (12)	赤木 朋子
学校教育研究科	2 (2) * 1 (1)	火原 ひとみ
社会学研究科	89 (26) * 9 (6)	掛札 真平
理学研究科	160 (28) * 1 (0)	池原 達夫
先端物質科学研究科	96 (11) * 2 (2)	朝田 浩至
医学系研究科	88 (46) * 3 (0)	稲垣 祥子
工学研究科	318 (23) * 12 (5)	浅田 昌利
生物圏科学研究科	113 (39) * 2 (1)	池崎 恭子
国際協力研究科	47 (18) * 19 (8)	岩本 由実
合計	1,131 (303) * 66 (36)	

(注)()内は女子で内数 *は外国人留学生で内数

教育学研究科(新)は、平成12年4月、既設の教育学研究科及び学校教育研究科を改組・再編したものの。

平成13年度広島大学大学院博士課程及び博士課程後期修了者数

研究科名	課程	修了及び授与者数	筆頭者氏名
文学研究科	課程博士	9 (2)	楠本 信道
	論文博士	4 (0)	土居 晴洋
教育学研究科	課程博士	22 (8) * 6 (2)	橋本 優花里
	論文博士	8 (4) * 1 (0)	伊藤 順子
社会学研究科	課程博士	3 (2) * 1 (1)	長谷川 義仁
	論文博士	0 (0)	
理学研究科	課程博士	38 (3) * 6 (1)	大倉 健作
	論文博士	4 (1)	西村 民樹
先端物質科学研究科	課程博士	7 (2) * 3 (2)	角川 幸治
	論文博士	0 (0)	
医学系研究科	課程博士	63 (19) * 7 (4)	加納 由香利
	論文博士	13 (4) * 1 (1)	野田 衛
歯学研究科	課程博士	27 (7) * 5 (2)	Ishrat Jahan
	論文博士	3 (1)	伊藤 良明
工学研究科	課程博士	34 (2) * 8 (2)	中 哲夫
	論文博士	8 (0) * 2 (0)	楊 楊
生物圏科学研究科	課程博士	30 (10) * 17 (5)	智和 正明
	論文博士	4 (1) * 2 (0)	太田 恵美
国際協力研究科	課程博士	18 (7) * 11 (4)	飯山 直樹
	論文博士	2 (1)	酒川 茂
合 計	課程博士	251 (62) * 64 (23)	
	論文博士	46 (12) * 6 (1)	

(注)()内は女子で内数 *は外国人留学生で内数

平成13年度学位記授与式 各代表

14. 3. 21

区分	項目	学部及び研究科	学科及び専攻	氏名
学部・専攻科	代請者	教育学部	教育学科	片山 洋平
	送辞者	医学部	総合薬学科	前田 奈穂
	謝辞者	工学部	第四類	鈿 優介
大学院	M 代請者	国際協力研究科	博士課程前期 開発科学専攻	ALEXANDROV MAXYM
	D 代請者	医学系研究科	博士課程 内科系専攻	中村 毅
	M・D 謝辞者	文学研究科	博士課程前期 国語学国文学専攻	岡 陽子
	留学生 謝辞者	教育学研究科	博士課程後期 心理学専攻	SERAFIN LINTOP NGOHAYON

表彰者一覧

平成14年3月21日(木)(学位記授与式)

(1)学術研究活動 学部生(成績優秀者)

(規程第2条第1号該当)

学部	学科等	氏名	表彰に値すると認められる行為等
総合科学部	総合科学科	佐々木 れい	学業成績が極めて優秀である。
文学部	人文学科	小林 美香恵	〃
教育学部	教科教育学科	中村 勝	〃
学校教育学部	小学校教員養成課程	石崎 香織	〃
法学部	法学科	丸岡 清枝	〃
経済学部	経済学科	古賀 薫	〃
理学部	地球惑星システム学科	渡辺 克晃	〃
医学部	総合薬学科	越智 裕美	〃
歯学部	歯学科	加藤 千景	〃
工学部	第三類(応用化学課程)	瀬口 春美	〃
生物生産学部	生物生産学科	岡村 和泉	〃

(1)学術研究活動 大学院生

(規程第2条第1号該当)

候補者氏名又は団体名	表彰に値すると認められる行為等
大学院理学研究科 博士課程後期 化学専攻(D11) 大森 直樹	含酸素環式化合物の一種である Oxidopyrylium 塩を用いる付加環化反応による7員環と5員環の縮環した Hydroazurene 骨格の高面撰択的反応の開発研究を行い、さらに天然物化合物の全合成の新しい知見を得て、Chem.Comm.2001.Sep 1552-1553 に発表した。米国オハイオ州立大学化学科での研究成果は、アメリカ化学会の国際専門誌J.Org.Chem.65,4303-4308(2000),66,8629-8639(2001)に掲載され、有機化学の分野で顕著な業績を上げた。

(2)課外活動

(規程第2条第2号該当)

候補者氏名又は団体名	表彰に値すると認められる行為等
清水 恵子(文・人文10)	第33回全日本学生フランス語弁論大会において、関西日仏学館長賞を受賞 大会開催日:平成13年11月10日 京都外国語大学 全国36大学411名参加し、本大会18名中の受賞
体育会柔道部(女子部) 津野 晴美(教・教10) 上水 美穂(教・教10) 川口 絵美(教・教11)	平成13年度第10回全日本学生女子柔道優勝大会(三人制)において入賞(第3位) 大会開催日:平成13年6月23日 日本武道館

岩脇あすか(教・教12) 中野 裕子(教・教13)	各地区の代表36校が参加した全日本学生女子柔道優勝大会(三人制)に中国・四国地区の代表として出場(地区優勝)し、3位入賞をたした。
高尾 裕子(教・教10) (陸上競技部)	第56回国民体育大会陸上競技において、成年女子100m入賞(第8位) 大会開催日:平成13年10月15日 グランディ・21宮城スタジアム 天皇賜杯第70回日本学生陸上競技対校選手権大会(インカレ)において、女子200m入賞(第5位) 大会開催日:平成13年9月28~30日 国立霞ヶ丘競技場
松本 和紀 (工・四類・建設系10) (弓道部)	第39回伊勢神宮奉納第47回東西学生弓道選抜対抗試合において、優秀選手賞、的中率第一位、皆中賞(20射20中)を受賞 大会開催日:平成13年11月22日~24日 伊勢神宮 中四国地区の代表(地区最高的中者)として出場し、全国各地代表出場選手26名中優秀選手賞、的中率第一位、皆中賞を獲得した。
工学部第四類 E. S. グループ 「人力ポート製作チーム Hues」 勝田 貴志 (社会環境システム専攻M13) 山崎江津雄 (設計工学専攻M12) 森下 圭 (設計工学専攻M12) 岩佐 晴男 (設計工学専攻M12) 大原 寛昭 (設計工学専攻M12) 小池かおり (社会環境システム専攻M13) 尾崎はるみ (工・四類・建設系10) 渡邊 壮士 (工・四類・建設系10) 溝尻 貴明 (工・四類・建設系10)	ソーラー&人力ポートレース全日本選手権大会2001人力ポートの部 学生部門優勝 大会開催日:平成13年9月1日(土)・2日(日) 浜名湖競技場 日本ソーラー・人力ポート協会主催の「ソーラー&人力ポートレース全日本選手権大会」において100mスピードレース人力部門で企業チームに次ぎ2位、一周スラロームレース2位と優秀な成績を残した。更に初出場の30分耐久レースに3位入賞を果たし、人力ポートの部学生部門において、7年連続の優勝となった。

(3) 社会活動

(規程第2条第3号該当)

候補者氏名又は団体名	表彰に値すると認められる行為等
佐々木祥子(教・心10) (ピア・サポーター)	平成10・11年度にキャンパス・ウォームラインにおいて、学生ボランティアとして電話相談活動に従事した。11年度のピア・サポーター養成セミナーに参加し、ピア・サポーターとして認定され、平成12年6月からのピア・サポート・ルームの発足と同時に、ピア・サポーターとして平成13年度末まで相談活動に従事した。ピア・サポート・システムが定着していないわが国では、ピア・サポーターとしての活動は困難をきわめたが、持ち前のボランティア精神で未知の領域を開拓し、4年間のボランティア活動は、本学の学生支援活動に大いに貢献した。
南 花枝(教・心10) (ピア・サポーター)	
石井 洋子(学・小10) (ピア・サポーター)	